



▲工場全体 (昼間)

活かし、新たな業界への進出も計画
中だという。

こういった事業が展開されている
「タイ王国」は、日本にはない特色を
数多く有する。林は様々な差異を感じ
ながら、毎日を送っているのである。

「王国」とは何か

王国。その名の通り、王によって治
められる国家を指している。国王は絶
対的な存在であり、街のあらゆるこ
ろに写真や国旗が飾られているのが見
て取れる。もちろん、それは社内も例
外ではない。しかも、朝と夕方の一

2回、決まった時刻になると国歌が流
れてくるという、日本人からすると驚
くような習慣が根づいている。

国家形態が違うだけで、有事の際の
動きも、日本とは大きく異なる場合が
ある。例えば、2020年初頭から猛
威を振るっている新型コロナウイルス
への対応。初動の速さと規制の厳し
さは、日本の比ではなかった。王や、
その側につく軍の権力は絶大であり、
下された決定は即実行に移される。

「軍」と聞くと、どこか怖い印象を
受けるかもしれないが、それだけが全
てではない。この国には、恐怖とは正
反対の側面があるのだ。

仏教が主流の、「微笑みの国」

柔和でフレンドリーなのが、代表的
なタイ人の国民性。親をとて大切に
するという特徴も持ち合わせている。大
多数の人は上座部仏教を信仰し、仏教
に関わる重要な祝祭日は、国の休日に
指定されている。そういった日は基本、
禁酒となり、売買すらも許されない。

食生活も日本とは異なり、炊事する
よりは外食が多い。林のアパートに
も、台所は設置されていないという。
現地の人は皆辛いものが大好きで、パ
クチーなどハーブの香りが漂えば「こ
れぞタイ料理」といった感じである。
「私が思うに、この国の人たちは『ア

フターファイブ』の使い方が上手で
す。お酒やダンスを好み、楽しむとき
はとことん楽しむ。それだけに、お金
の使い方は少々派手であることが多
いようです。一方で、交通ルールが
非常に緩いので、訪れる際はご注意を
(笑)」

職業人としてのマインド

タイの人々は、素直で真面目だ。コ
ミュニケーション能力も高い。そし
て、指示されたことを忠実に実行す
る。この点についていえば、日本にも
勝るとも劣らない。だが、ともに働く
上で留意すべき特徴も押さえておか
ねばならない。

まず、こちらの要求や、教えた内容
についての理解を確かめると、必ずと
いつていいほど「イエス」という返事
が聞こえてくる。しかし、実際には理
解できていない場合も少なくない。
「ノー」を表明するのが苦手なのだ。ま
た、指示は守るが、工夫を加えて新た
なものを生み出そうといった傾向は、
あまり見られない。この辺りの意識の
差には、林も苦戦してきたという。

しかし、文化の違いを認め合って歩
み寄らなければ、いい仕事などできる
はずがない。林は常にどうすれば距離
が縮まるのかを考え、困難を乗り越え
てきたのである。



▲PR作業風景



▲全体朝礼

Chubutsu Glocal Times

Vol.11
2020.8.3
発行



はやし やす あき
林 康明

執行役員 化成品事業部 部長
兼 CHUBUTSU THAILAND 社長

株
式会社中央物産の重要な海
外拠点の一つ、タイ王国。こ
こで工場を指揮しているの
が、林康明である。

海外赴任は非常に面白い仕事だが、
文化や言葉の壁など、問題があること
も無視できない。林が見たタイとい
う国、そこで生きる人々と文化、そして
中央物産の社員としての経験を聞い
た。

タイにおける事業

林が携わっているビジネスは、化
成品事業部の内容がベースとなってい
る。家電、自動車などで使用する各種
断熱材や、シール、パッキンに関わる
製品が扱われているというわけだ。

だが、日本とタイ、両者の事業を比
べると、相違点も見受けられる。最大
の違いは、加工メーカー以上の業務を
行うか否か。前者ではまず、用途ごと
に材料を調達する必要がある。それを
社内で粘着塗工、製品加工するという
スタイル。しかし、後者はこの限りで
はない。発泡材を始めとした、材料そ
のものの生産も行われている。中央物
産で作った材料が加工され、製品とし
て生まれ変わるといった流れだ。加え
て、日本では取り扱われていない、防
振ゴムやコンプレッサカバーも守
備範囲に入っている。これらの強みを



▲工場全体（夜間）

**優しい国民性
だからこのハードル**

で会社の目指す方向性や、皆の役割、何をすべきなのかを伝えるように心がけた。
タイは、ものすごい力を秘めている。そう信じていたからこそ、踏ん張ることができたのである。
タイにおける新規参入の障壁は、非常に高い。その理由は、タイ人の性格にある。この国の人々は争いを嫌う。つき合いが長い会社を大切に、他所の企業が入ってきて競争しようとする



ると、いい顔はしないのだ。こちらがどんなに安価で優れた製品を持ち込んでも、その姿勢はなかなか変わらない。「競争力があるのはわかった。でも、だからといって切り替えてしまったら、既存のメーカーがかわいそうなので……」。
現地の購買担当は口々にこう語り、取り引きの開始を渋る。優しさゆえの難しさだ。だが、それをよしとしてしまつては、ビジネスは進まない。日本人駐在員の協力を得て、「良いものを安く購入したい」という日本流の考えに納得してもらえような営業動を行うのが、林たちの使命。一筋縄ではないが、当初の想定より大幅な時間をかけながらも、見事取り引きをスタートさせたケースも存在する。地道な努力は、徐々に花開き始めているのである。

Breakthrough By One Team

中央物産は、タイとカンボジアの国境地帯に位置する経済特区に進出した。そこで働く人々は、最初のうちは「会社とは何か、仕事とは何か」を完璧に理解しているわけではなかった。それでもスタッフ同士が力を合わせることで、今や、顧客への安定的な製品供給が可能になるまでに成長を遂

日 本を遠く離れ、タイで活躍を続ける林康明。国民性や仕事に対する価値観の違いに苦しみながらも、事業を成功させるべく試行錯誤を続けてきた。この国での、一体どんな経験を積んできたのだろうか。

意思疎通の難しさ

この日、林は非常に焦っていた。量産導入を目前に控えた時期に、とんでもないことが判明したのだ。本来であれば、各客先へのサンプル提出や、それに伴う書類の準備が行われてしかるべきであった。もちろん、あらかじめスタッフには指示を出し、皆理解しているものと油断していた。ところが、こちらが伝えておいたことが、どこどこく実行されていなかったのだ。

すぐ担当者を呼びつけ、再度確認したところ、返事は「わかった、やつておく」というものだった。しかし、しばらく経って様子を見ると、またもや林の言葉は無視されていた。同じようなやり取りが何度も続き、結果として量産導入の遅れにつながってしまう。自分の甘さに、後悔の念が襲ってきた。

「特に神経を使うべき部分については、もっとしつこく、繊細にサポートしている。可能性は無限大なのだ。社内で掲げられている、「チーム一丸となり、より強く、つき抜けるほどの飛躍を目指す。そして、一人ひとりの力を向上させて、世界一の工場になる」という目標の実現も、そう遠くはない。

「従業員が働くことに喜びを感じ、その家族も幸せにできるような会社になりたい」と語る林。タイと日本の架け橋として、林はこれからも走り続ける。



▲幹部懇親会

するべきだったな……。そもそも、仕事にかける熱量が違うと見える。どうしてこんなにも、お互いの気持ちが通じ合わないのだろう。
こんな調子では、海外事業を成功させるなど、夢のまた夢だ。しかし、林は決して諦めなかった。

相互理解を目指して

現地の人たちを理解し、同時に日本や会社の考えを理解してもらうには、どうするべきなのか。林は頭を悩ませた。ただでさえ、両者の間には言語の壁が立ち上がった。一番大切な言葉によるコミュニケーションが封じられてしまうのは、かなりの痛手だった。それでも投げ出すわけにはいかない。考えに考えた末、一つの方法が浮かび上がる。

「言葉が通じないのなら、それ以外の手段を最大限活用してみよう」。
表情、ジェスチャー、声色……使えるものはたくさんあると気がついてからの意思疎通は、以前よりスムーズになっていった。また、作業中だけのつき合いでは、相手を深く知ることはできない。

林は意識的に、コミュニケーションの場を広げていった。業務時間だけではなく、社員旅行や懇親会も貴重な機会。ことあるごとに声をかけ、その中



▲社員旅行

企業情報

- ◆設立年：1954年6月
- ◆年商：225億円

林康明さんへの メッセージ

今回は林さんをよく知る、国内外から4名の方に林さんの溢れる魅力を語っていただきました!

■第一印象

当初、陽気で行動力のある方だと思っていました。しかし、今ではとても寂しがり屋な方だと感じています。

■忘れられない思い出

雨が降っている中、カップを着て一緒にクレーム対応に行ったことです。

■林さんはどんな存在?

責任感が強く、尊敬する上司です。

■尊敬しているところ

お客様への接待方法です。自分の意思を確実に相手に伝えています。

■林さんへのメッセージ

昨年、体調を崩されているのでご自身でも理解されていると思いますが、仕事は身体が資本です。お身体を大切にしてください!

■第一印象

正直、面接の際は怖い方だと感じました。しかし、現在では相談に乗ってくれる頼りがいのある方だと思っています。

■忘れられない思い出

日本とタイの生活の違いや、日本の考え方などについて教えていただきました。

■林さんはどんな存在?

「いい会社にしたい」という思いから、我々を引っ張ってくれる存在です。

■尊敬しているところ

ビジネスに対する考え方がしっかりしている点です。

■林さんへのメッセージ

これからも厳しく指導してほしいです。ただ、厳しい中でもやさしさも忘れずに教えてほしいです。

中物タイランド
総務部 マネージャー
Keng さん



中物タイランド
工場長
かただ しんすけ
片田 伸介 さん

化成品事業部
次長
ちむら けんた
千村 健太 さん



化成品事業部 営業課
課長
にしお すみひと
西尾 純人 さん

■第一印象

今も昔も志が高く、常に挑戦を続けられている方だと思っています。

■忘れられない思い出

体調を崩された際、病院の集中治療室から仕事の指示をいただいたことです。

■林さんはどんな存在?

偉大な存在です。常に私の考えている3手先を考えている方です。

■尊敬しているところ

国内外200人以上の組織を纏める統率力です。お客様から絶大に慕われている点も尊敬しています。

■林さんへのメッセージ

日本と同行させていただくときには、林部長のプレゼンを遠慮なく盗ませてください!

中途社員が語る、 入社して驚いたベスト3!

新卒社員の皆さんにとっては「普通」と感じられていたことが、実は……?
中途として入社された社員の皆さんに、中央物産について驚いたことを聞いてみました!

押出し発泡班

こんどう ひかる
近藤 光 さん
2019年3月入社

1 Best 社長や主任との 交流がある

誕生日会に社長と主任が出席されていて、そのときにお話できとても嬉しく感じました。

2 Best 会社主催の 行事が多い

行事がたくさんあるため、他の部署の方々とも交流を持てます。

3 Best 工場の5Sが 行き届いている

柿野工場では社員一人ひとりの5Sに対する意識が高く、皆さんが協力して掃除や改善活動を行っていることに驚きました。

中央物産に入社してよかったこと

仕事と私生活の両方で新しい物事にチャレンジする機会があることです。

今後の目標

入社してから1年が経過しました。今後、尊敬してもらえるような先輩になれるよう日々技術を磨いてまいります!

経理課

いといがわ くみこ
糸魚川 久美子 さん
1999年12月入社

1 Best 忘年会の 景品が多い

たくさんのくじ引きや社長賞などがあり、アットホームな会社だと思います。

2 Best 電話の多さ

化成品が本社にあったときは、すべての電話が事務所に入ってきていました。そのため、誰かが電話対応をしていると他の対応ができないほどの賑やかさがあり驚きました!

3 Best 趣意書の導入

仕組みが分からず「趣意書って何?」と思いましたが、ほんの気持ちをお送りできるシステムにとっても感心しました。

中央物産に入社してよかったこと

子育てのため社会から遠のいていた私に、皆さんがとても親切にいろいろと教えてくれました!本当に感謝しています!

今後の目標

難しさもありますが、新しいことを取り入れて成長したいと思っています。

化成品事業部 製造課

よしむら まさのり
吉村 雅則 さん
2014年4月入社

1 Best 社内旅行が豪華

世の中の情勢にもよりますが、国内数か所または海外から行き先を選択できることです。前回は研修旅行として上海に行き、次はタイ旅行も予定されています。

2 Best 管理職の方々が 若々しい

前職と比較して管理職の方々が若々しい印象があり、驚きました。他の社員も全体的に若々しいと感じています。

3 Best 材料の多さ

化成品工場ですが、荷受けを担当した当初は材料の種類と量の多さに圧倒され、パニック状態でした。

中央物産に入社してよかったこと

旅行や忘年会など盛大に行っていたことです。周りの人とコミュニケーションが取れるため、仕事やプライベートの話も楽しくできます。

今後の目標

荷受けの仕事をしていますが、入社当時と比べると材料の種類や量が増えていると感じます。他部署と連携し、作業時に気になったところは報告し、在庫量が適正化できるよう貢献したいと思っています。